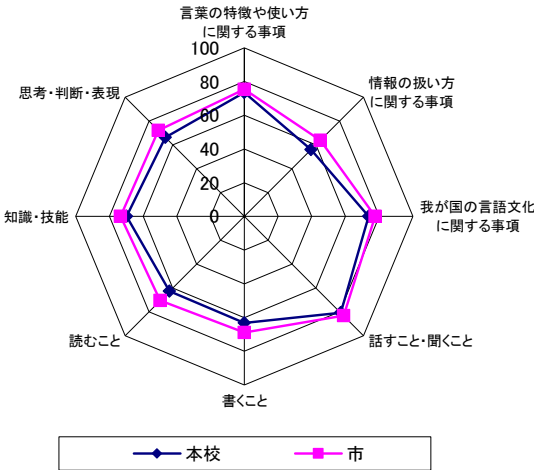


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.5	75.4	68.3
	情報の扱い方に関する事項	56.1	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	73.7	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	80.8	83.2	81.6
	書くこと	63.2	68.9	58.6
	読むこと	62.7	70.5	65.7
観点別	知識・技能	69.8	73.4	66.2
	思考・判断・表現	66.3	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

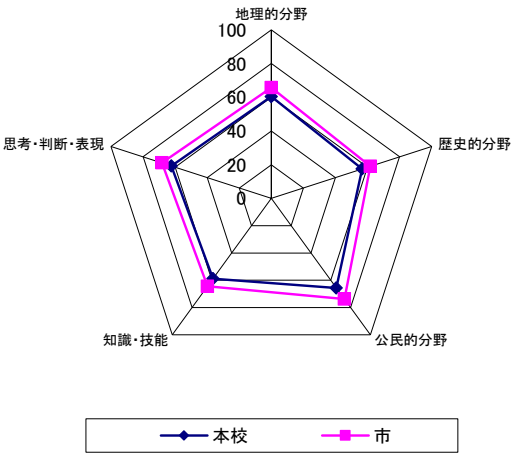
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●市の平均と比較すると1.9ポイント下回っている。 ○敬語に関する問題では市の平均とほぼ同じである。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正しい言葉遣いや、文法などの定着を図るため、基礎的な学習を充実させる必要がある。
情報の扱い方に関する事項	●市の平均と比較すると1.9ポイント下回っている。	・情報を正しく読み解き、適切に選び出す力を身に付けさせるため、調べ学習の時間を取り入れる必要がある。
我が国の言語文化に関する事項	●市の平均と比較すると3.9ポイント下回っている。 ○歴史的仮名遣いに関する問題では市の平均を3.9ポイント上回っている。	・漢字の学習・テストなどを繰り返し行うことで定着を図る必要がある。 ・語彙力を高めるために、語句調べなどの時間を充実させる。
話すこと・聞くこと	●市の平均と比較すると2.4ポイント下回っている。 ○話の展開を予測しながら聞く問題では市の平均と比較して2.1ポイント上回っている。	・正しく言葉を聞き取り、適切な言葉を選びコミュニケーションをとれるよう、話し合い活動を積極的に取り入れる必要がある。
書くこと	●市の平均と比較すると5.7ポイント下回っている。 ○指定された長さで文章を書く問題では0.3ポイント、2段構成で文章を書く問題では0.8ポイント市の平均を上回っている。	・自分の考えを書いて表現することへの苦手意識をなくすため、授業の振り返りなどで書かせる必要を取り入れる必要がある。
読むこと	●市の平均と比較すると7.8ポイント下回っている。	・正しく文章を読み取るため語彙力をつけさせるため、事前の語句調べを入念に行い、語彙力を高める必要がある。 ・主張や根拠を正しく読み解けるようになるため、文章の構成についての知識を身に付けさせ宇必要がある。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.5	65.7	56.7
	歴史的分野	56.6	61.7	54.8
	公民的分野	65.7	73.8	73.3
観点別	知識・技能	58.8	64.5	59.5
	思考・判断・表現	62.4	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

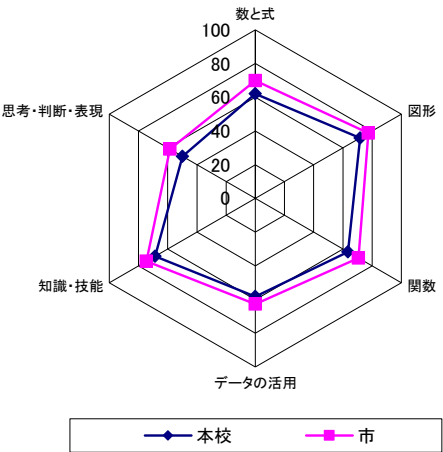
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●正答率は市の平均よりも5.2ポイント低い	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な知識の習得と、知識を結び付けて思考する能力を身に付けさせる必要がある。
歴史的分野	●正答率は市の平均よりも5.1ポイント低い	・歴史に対しての興味・関心を高めるとともに、基礎的な知識の習得に力を入れる必要がある。
公民的分野	●正答率は市の平均よりも8.1ポイント低い	・社会的事象に関心を持たせ、新聞やニュースの情報を積極的に取り入れる指導の必要がある。
全体	●学校行事や地域の活動とその準備に時間と関心を取られ、基礎的な知識の習得に至らなかった時期があった。 ○社会科が「とても好き」と答えた生徒が、昨年度よりも4.4ポイント増えた。 ○社会科が「将来のために大切」の問いに対して「とても思う」が5.1ポイント増加した。	・学校行事の精選と準備時間の縮小、落ち着いて学習に取り組める時間の確保が重要。 ・各分野の特性を教師自身が良く知り、生徒の実情の適した指導方法を開発し、実践する必要がある。
正答率の分布	○正答率60%と70%の割合は、市の平均を上回っている ●正答率が80%を超える生徒については、市の平均よりも大きく下回る	・社会科の教科としての学習が十分ではない生徒への指導(基礎知識の修得)と中間層の生徒が、理解を深め、知識を増やしていく指導が必要。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	62.1	69.9	66.4
	図形	71.8	77.4	68.1
	関数	63.4	70.6	60.8
	データの活用	58.2	62.7	54.2
観点別	知識・技能	68.6	74.6	70.3
	思考・判断・表現	49.8	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

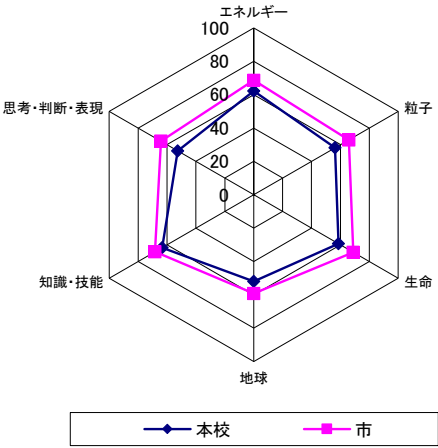
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平方根の計算問題は、市の正答率を2.5ポイント上回った。 ●市の正答率を7.8ポイント下回っている。 ●与えられた文章から立式すること、文字式で表すことについて、理解が不十分な生徒が多い。	・「数と式」の分野では、計算の過程を重視することと繰り返し計算問題を解くことを行い、計算テストなどを行いながら、理解度を確認し指導する。 ・その文字が何を意味するのか、何の代替えなのかを咀嚼して十分に理解させる指導を行う。
図形	●市の正答率を5.6ポイント下回っている。 ●垂直二等分線を作図する問題の正答率が低い。しかし、それ以外の問題では市の平均と大きな差は見られない。	・道具の使い方や道具の持つ意味の定着を図る。 ・証明に関しては、定理を習得すると、証明の手順の見通しをもって取り組めるように指導する。
関数	○1次関数のグラフをから式を求める問題では市の正答率を2.0ポイント上回っている。 ●関数から傾向を読み取り、説明し、適切な判断をする問題において、正答率が低い。	・基礎的な知識の定着を図るとともに関数の有用性を実感できるような指導する。 ・関数を関数としてだけでなくデータとして読み取り活用するといった、領域をまたいだ指導をする。
データの活用	○平均値が含まれる階級の階級値を考える問題では、正答率が市の平均を6.0ポイント上回っている。 ●度数折れ線を読み取り、特徴を説明する問題では、正答率が31.8ポイントと低い。	・箱ひげ図が生活のどのような場面で活用ができるかについて学習させる。 ・データの分析には様々な方法があるが、3年時に既習の内容を振り返りながらそれぞれの良さについて確認する時間を確保する。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.2	68.7	63.6
	粒子	56.3	65.7	64.2
	生命	58.7	68.9	64.4
	地球	52.0	59.2	54.3
観点別	知識・技能	63.4	68.4	64.4
	思考・判断・表現	52.6	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

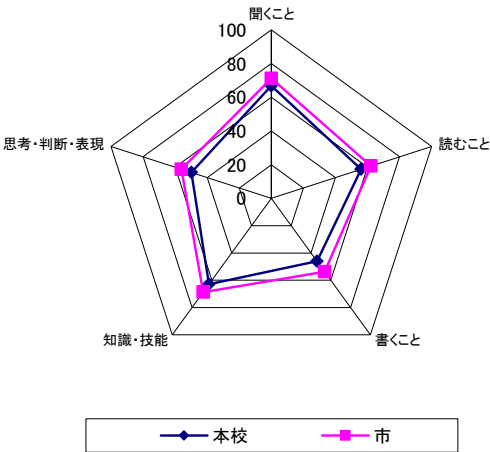
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●市の正答率を6.5ポイント下回っている。 ○記録タイマーのテープの長さから台車の平均の速さを求める方法について理解している生徒が多く、市の正答率を上回っている。 ●実験の結果から目に見えないものを推測することが苦手な生徒が多い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・知識を暗記するだけでなく、実験の結果や資料などを分析し、物事を推測する学習活動を丁寧に行っていく。
粒子	●市の正答率を9.4ポイント下回っている。 ●実験の際に行う操作の意味について理解していない生徒が多い。	・実験の目的を明確にしなが、調べる方法について考えさせたり、安全を確保するための留意点についてその意味について理解させたりしていく。合わせて、考察を丁寧に行い、実験の結果から物事の規則性を推測する活動を丁寧に行っていく。
生命	●市の正答率を10.2ポイント下回っている。	・定期テストでは、生物領域の正答率が高いにも関わらず、時間が経過するとともに、正答率が下がってしまっている。家庭学習等において、計画的に復習することができるよう、指導していく。
地球	●市の正答率を7.7ポイント下回っている。 ○1年時に履修した火山の領域については、定期テストにおいて正答率が低かったが、苦手領域の克服に取り組んでいる生徒が多く、今回の調査では比較的正答率が高かった。 ●「前線の通過と天気の変化」については、観測記録と天気図から観測地点を推測する問題の正答率が非常に低い。	・実験の結果や資料を分析して、物事を推測することに対して、苦手意識をもつ生徒が多いので、授業において、丁寧に指導を積み重ねていく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.8	71.2	65.4
	読むこと	56.0	62.1	56.9
	書くこと	46.1	53.8	42.5
観点別	知識・技能	62.9	68.8	64.7
	思考・判断・表現	49.9	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○人物の説明についての英文を聞き、内容を理解する問題では、正答率が市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○日常的な話題を聞き、必要な情報を把握する問題では、正答率が市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●対話を聞き、概要を捉えて適切に回答する問題では、いずれも市の平均を7.3ポイント、8.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・アンケート結果では、英語の学習に苦手意識を持ちながらも、リスニング問題に対する苦手意識は低い傾向にある。まとまった長さの英文や会話を聞く機会を増やし、要点を捉えられる力を身に付けるよう指導する。 ・多様な聴覚教材を活用し、英語に耳で触れる機会を増やす。
読むこと	○対話文を読み、文構造や文法事項を理解する問題では、市の平均を3.6ポイント上回っている。 ●語彙の知識・理解を問う問題では、正答率がいずれも市の平均を1.1ポイント下回っている。 ●さまざまな英文や長文を読み取る問題では、いずれも市の平均を下回っている。	・語彙力をつけるため、授業で英単語や熟語を繰り返し扱い、小テスト等で身に付いているか確認する。 ・英語の長文を読む機会を増やし、接続語や指示語に注意しながら読むことを意識させ、概要やポイントを捉えられるよう指導する。
書くこと	○並べ替えの英作文では、校内正答率が70パーセントを上回っているものがある。 ●場面に応じた英文を書く問題では、市の平均を12.6ポイント下回っているものがある。 ●3文以上の英作文の問題では、いずれも市の平均を1.1から4.3ポイント下回っている。	・小テスト等を実施し、英作文を行ううえで基本となる単語を書く力を養う。 ・求められる場面に応じてどのように応じればよいか、繰り返し練習しながら表現が身に付くよう指導する。 ・テーマに沿って自分の伝えたいことを書く活動を増やし、なるべく簡単な文法や語彙を用いて表現する力が身に付くよう指導する。

宇都宮市立城山中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	各教科で話し合い活動やICTを積極的に取り入れ、言語活動の質的向上や振り返り活動の充実を目指す。生徒一人一人の学びを見取りじっくりと取り組んでいくように適切に支援する。	全学年とも「学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習に生かしている」の肯定的回答が市の平均を上回っている。「パソコンを使って考えや調べたことを伝えることはできる」の肯定的割合も2・3年生は市の平均を上回っている。
家庭学習を習慣化させ、学力の定着を図る。	家庭学習の時間の確保や地域学校園で共通に取り組んでいる「宿題プラスワン」で内の充実を目指した指導の工夫	家庭学習についての質問で、全学年とも学習時間は昨年度より向上したが、1時間以上では全学年、市の平均を下回っている。学習の仕方「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の質問では2年生以外市の平均を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・授業への取り組みや学習に対する気持ちや態度については、各学年ともほとんどの項目で市の平均を上回っている。しかし、3年生の学力調査でのそれぞれの教科での正答率は市の平均を下回っている。学習の仕方の中で、内容を振り返り、次の学習につなげる肯定的割合も下回っている現状があり、授業内容の定着のための振り返りを更に充実させる授業の改善を工夫していきたい。

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」の項目は1・2年生は市の平均よりも下回っている。次年度も引き続き、家庭学習の習慣化と家庭学習内容を充実させていきたい。